

第4章 訓練検証会

4.1 検証会の概要

検証会では、訓練参加者を中心に、平成26年度新宿駅西口地域地震防災訓練の実施内容について振り返りを行った。訓練の検証にはKPTフォーマット（図63）を使用し、参加した訓練ごとにグループをつくり、グループ単位で成果と課題の抽出・整理および検証結果の報告を行った。以下に実施概要および実施状況（図64）をそれぞれ示す。

- ・名称：新宿駅西口地域地震防災訓練検証会（新宿駅周辺防災対策協議会 第3回西口地域部会）
- ・目的：平成26年度の地震防災訓練の実施内容を振り返り、その成果と課題を検証する。
- ・日時：2014年12月12日（金）14:00～16:00
- ・会場：工学院大学新宿キャンパス
- ・参加人数：66名
- ・プログラム

14:00～14:05	開会のあいさつ	新宿区区長室危機管理課長 松田 浩一 氏
14:05～14:10	検証会の進め方について	鯨沢工学研究所 代表 鯨沢 曜 氏
14:10～14:40	新宿駅西口地域地震防災訓練実施報告	
	(1) 自衛消防訓練	工学院大学 教授 久田 嘉章 氏
	(2) 医療救護訓練	鯨沢工学研究所 代表 鯨沢 曜 氏
		東京女子医科大学 救急医学講座 講師 武田 宗和 氏
		国立国際医療研究センター病院救急科 佐々木 亮 氏
	(3) 西口現地本部訓練	工学院大学 准教授 村上 正浩 氏
16:30～16:55	訓練の検証（ワークショップ）	
16:55～17:00	まとめ・閉会のあいさつ	新宿駅周辺防災対策協議会 西口地域部会長 久田 嘉章 氏

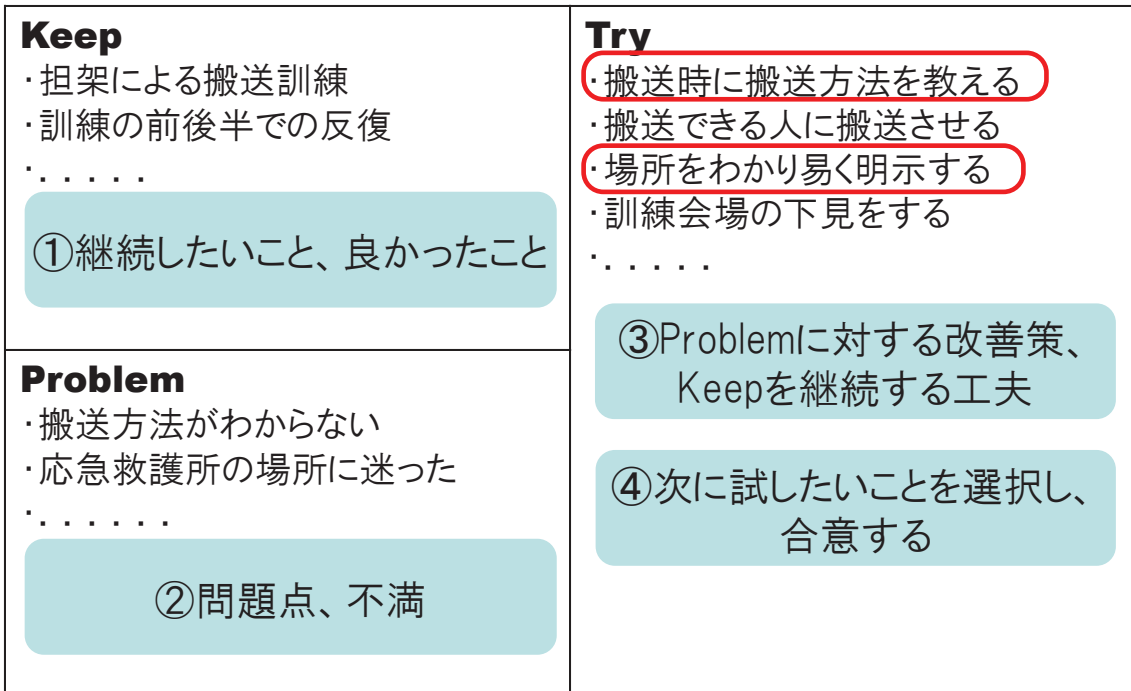


図63 KPTフォーマットによる検証ステップ



図64 訓練検証会の実施状況

4.2 検証会の結果

訓練検証会では、参加した訓練ごとに6名以下の5つのグループをつくり、グループ単位で訓練をテーマにKPTを作成した。図65～図69に検証会で作成したKPTを示す。

自衛消防訓練①結果整理		2014年12月12日 新宿駅西口地域地震防災訓練検証会 結果	
テーマ:自衛消防訓練①			
<p>Keep(継続したいこと、良かったこと)</p> <p>【計画・運用】</p> <ul style="list-style-type: none"> この訓練自体は継続して実施した方が良い いろいろな役割を経験することにより、自社でも災害時には役に立つことがあると感じている 自社ビル以外の訓練に参加できた 本部隊と地区隊が連携した訓練 <p>【ツール】</p> <ul style="list-style-type: none"> 通信環境が生きている前提ならIT機器の使用は有効 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> 講習会のビデオの振り返りは分かりやすくて良かった 日赤の応急救護訓練 	<p>Try(Problemに対する改善策、Keepを継続する工夫)</p> <p>【計画・運用】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な状況を盛り込む シナリオの中にサプライズを入れる <p>【ツール】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前にわかりやすい資料の配布 自社の応急救護備品の持参(可能な会社のみ) 地区隊長のマニュアルの作成(消防署からの支援) 		
<p>Problem(問題点、不満)</p> <p>【計画・運用】</p> <ul style="list-style-type: none"> 訓練の基本を明確にして実施する(地震対応、火災対応) 応急救護の知識が無い方はそれ以外の班にいた方が良い 講習会の時間が少し長く感じたので、もう少し短縮した方が良い きっちりとした班編成で動かなくても良い 各班の装備品を明確に 毎年違う役割を担当する テナントからの被害情報を訓練シナリオに取り入れるべき(水漏れ、天井落下等) <p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 決められた役割のみに集中する傾向があった シナリオ通りの動きでは面白くない 応急手当ての知識が不十分 地区隊長の指示が明確になされるべき どのように行動するか具体的に分からず、暇になってしまった <p>【ツール】</p> <ul style="list-style-type: none"> iPadは操作したこともない人が多い中、実際の災害時の利用は現実的ではないと感じた 			

図65 KPTフォーマットによる検証結果(自衛消防訓練①)

自衛消防訓練②結果整理		2014年12月12日 新宿駅西口地域地震防災訓練検証会 結果	
テーマ:自衛消防訓練②			
<p>Keep(継続したいこと、良かったこと)</p> <p>【計画・運用】</p> <ul style="list-style-type: none"> 前後半に分かれて2回訓練を行った 高層ビル内で起こりうる様々な被害(火災、閉じ込め、室内被害)を想定した訓練を経験できた <p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地震発生時の大変さを実感した 本部訓練の重要性を再認識した 自衛消防隊の役割を確認できた <p>【ツール】</p> <ul style="list-style-type: none"> 無線機を使ったことでテナントから本部の様子がわかった 	<p>Try(Problemに対する改善策、Keepを継続する工夫)</p> <p>【計画・運用】</p> <ul style="list-style-type: none"> 被害レベルと対応ルールの方向性をある程度決める 消防計画のうちの訓練に位置付ける 訓練目的を明確にし、何を検証したいのか説明する(ビル間連携、西口本部など) 情報トリアージの訓練を行う 人数配分を見直し、地区隊の人数を厚くする 自衛消防本部隊長の教育を行う 複数のビルの自衛消防隊で連携して訓練を行う 繰り返し訓練を実施 本番のための事前リハーサルや講習会を実施する <p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> モデル隊の演技を実施 <p>【ツール】</p> <ul style="list-style-type: none"> 書き込める情報整理シートをあらかじめ準備する 自衛消防隊向けの「アクションカード」を作る ビル対応のチェックシート・アクションカードを整理する わかりやすい建物判定、やり方の明確化 主要ビルの本部隊間の連絡体制を整える 		
<p>Problem(問題点、不満)</p> <p>【計画・運用】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実災害時の活動との整合性 訓練目的の明確化 情報収集と整理は同時に出来ない 班編成が小さく、人手不足であった(実際には地区隊は全社員対応と思われる) <p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 隊長の力量によって進み具合や対応に違いが出てしまう 適切な対応がわからないまま訓練をしていた 普段行っていないことをいきなり実施した場面が多かった 様々な被害の優先順位がよくわからなかった <p>【ツール】</p> <ul style="list-style-type: none"> 建物チェックシートが複雑 チェックシートを様々な被害にも対応する必要がある 			

図66 KPTフォーマットによる検証結果(自衛消防訓練②)

医療救護訓練①結果整理		2014年12月12日 新宿駅西口地域地震防災訓練検証会 結果	
テーマ:医療救護訓練①			
Keep (継続したいこと、良かったこと) 【計画・運用】 ・救護所の立ち上げからの開始が実際に即していた ・2度訓練を行ったことは参考になる 【内容】 ・評価することで自分の役割を客観視できた	Try (Problemに対する改善策、Keepを継続する工夫) 【計画・運用】 ・ボランティアが集まる所から始めて、役割説明が行えるように、さらに実践的な訓練を目指す 【実施内容】 ・各自が役割を死守する 【ツール】 ・医療救護マニュアルの作成 ・役割の内容・目的を事前に救護所のホワイトボードに記入しておく(アクションカードにも記しておく) ・アクションカードを簡単な内容にする 【その他】 ・訓練の見本・サンプルVTRが見たい ・訓練のための事前講習会の実施、参加	Problem (問題点、不満) 【実施内容】 ・医師の方々の誰に何を伝えれば良いか困った ・どう対応するのが理想的なのか事前に知りたかった ・初めて参加したので、何をすれば良いかわからなかった 【ツール】 ・アクションカードの使い方がイマイチ	→ → → → → → →

図67 KPTフォーマットによる検証結果(医療救護訓練①)

医療救護訓練②結果整理		2014年12月12日 新宿駅西口地域地震防災訓練検証会 結果	
テーマ:医療救護訓練②			
Keep (継続したいこと、良かったこと) 【計画・運用】 ・2次トリアージを医師・看護師のペアですることは良い ・デブリーフィングが良かった ・前半・後半の2回実施したのが良かった(前半の失敗が後半改善できた) 【実施内容】 ・事前訓練の成果が出た(特に搬送) ・傷病者役への指導(設定説明、やり方補助) ・救護能力が向上(救護処置)	Try (Problemに対する改善策、Keepを継続する工夫) 【計画・運用】 ・事前講習を継続し、技量を維持・向上 ・応急救護講習会に参加したか見分けがつくようにする ・応急対応に関するリーダーの育成 ・事前説明の時点で情報の流れを説明する 【実施内容】 ・フリーの医師を増やす ・医師のリーダーを単独にする ・搬送先に救護者を3人以上常時待機とする ・救護のやり方を現地で教える人を作る 【ツール】 ・外傷治療に関する講習会を充実させる	Problem (問題点、不満) 【計画・運用】 ・救護者の処置がわからず、任せて良いかわからない ・誰も指示していないように思えた ・拘束時間が長い ・医師・看護師の数が少ない ・仮想の救護所なので現実味が少ない 【実施内容】 ・情報不足、救護活動が忙しい ・医師リーダーがトリアージのペアに加わると、トリアージが進まない ・常時観察する救護者がいてほしかった。急変した人は? ・見学者、観察者が多く、動きづらい ・傷病者の観察が不足した ・怪我の患部を見ない人が多い 【ツール】 ・傷病者観察記録カードが書ききれない	→ →

図68 KPTフォーマットによる検証結果(医療救護訓練②)

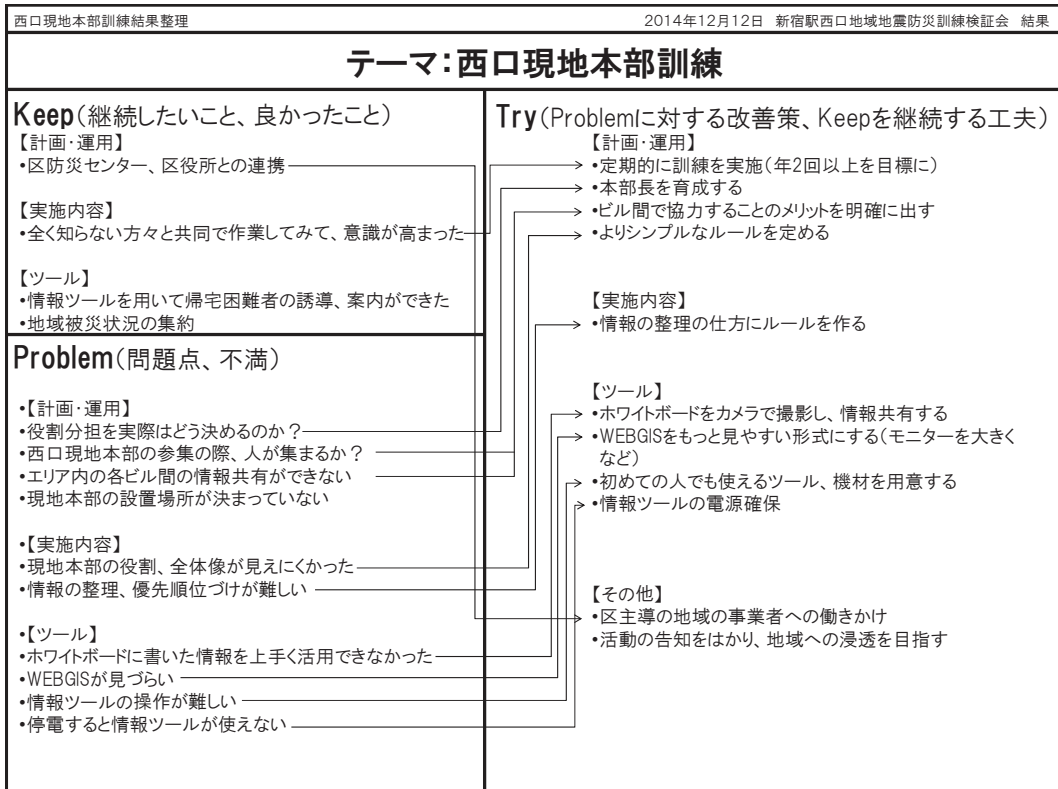


図69 KPTフォーマットによる検証結果(西口現地本部訓練)

4.3 アンケート調査と統合した検証結果

訓練検証会において訓練ごとに作成した KPT と、訓練参加者を対象に実施したアンケート調査結果(第3章参照)から抽出した KPT を統合・整理した。訓練ごとに統合・整理した KPT を図70~図72にそれぞれ示す。

自衛消防訓練の振り返り

緑:アンケート結果 青:検証会結果 赤:共通

Keep(継続したいこと、良かったこと)

【計画・運用】

- 1) 訓練計画が細部にわたっていた
- 2) 進行役がいたのでスムーズに行えた
- 3) シナリオがあったのでやりやすかった
- 4) この訓練自体は継続して実施した方がよい
- 5) 10月2日の応急救護講習会が役立った

【実施内容】

- 6) 大規模で多方面の人々が参加した実践的な訓練
- 7) 地域の方々との連携
- 8) 役割分担の重要性が実感できた
- 9) 隊長を中心としての動き
- 10) 地区隊内での情報共有
- 11) 救護所の設置、応急手当
- 12) 傷病者役をすることでどんな対応をしたら安心感を与えられるか知った
- 13) 全体として、どの程度でき、できなかったのかが分かった
- 14) 本部隊と地区隊が連携した訓練
- 15) 自衛消防隊の役割を確認できた
- 16) 本部訓練の重要性を再認識した
- 17) 地震発生時の大変さを実感した
- 18) 自社ビル以外の訓練に参加できた
- 19) いろいろな役割の経験は、自社でも災害時には役に立つ
- 20) 高層ビル内の様々な被害(火災、閉じ込め、室内被害)を想定した訓練経験
- 21) 前後半に分かれて2回訓練を行った
- 22) 講習会のビデオの振り返りは分かりやすく良かった(他訓練の実施内容)

【ツール】

- 23) 各班別のフローチャート
- 24) セミナーに継続して出席していたため図面に被害を記入できた
- 25) iPadのツールはデータ送信が上手くいけば使える
- 26) 傷病者観察記録・情報連絡シート
- 27) 通信環境が生きている前提ならIT機器の使用は有効
- 28) ラジオとトランシーバーを使ったことでテナントから本部の様子がわかった

Try(Problemに対する改善策、Keepを継続する工夫)

【計画・運用】

- 1) テナントをイメージさせる情報および設定 (P1)
- 2) 説明や講評の際、各テナントで整列させる (P2)
- 3) 講習会の内容を検討する (P12)
- 4) 被害レベルと対応ルールの方向性のある程度決める (P9)
- 5) 消防計画の一つの訓練に位置付ける (K20)
- 6) 訓練目的を明確にする(体験なのか、問題点の確認なのか) (P24)
- 7) 何を検証したいのか説明する(ビル間連携、西口本部について) (P24)
- 8) 人数配分の見直し、地区隊の人数を厚くする (P10)
- 9) 主要ビルの本部隊間の連絡体制を整える(情報連絡訓練も行う) (K7)
- 10) 繰り返し訓練を実施 (K16)
- 11) 事前にわかりやすい資料の配布 (P27)

【実施内容】

- 12) ビデオによる自衛消防訓練の振り返り (K22)
- 13) 複数のビルの自衛消防隊で連携して訓練を行う (K6, K7)
- 14) 情報トリアージの訓練を行う (P18, P25)
- 15) 多様な状況を盛り込む (P19)
- 16) シナリオの中にサプライズを入れる (P21)
- 17) わかりやすい建物判定、やり方の明確化 (P14, P31)
- 18) 自衛消防本部隊長の教育 (P22)
- 19) モデル隊の演技を実施 (P4, P23, P26, P30)
- 20) 事前リハーサルの実施、セミナーの数を増やす(本番に向けての練習) (P23, P26, P30)

【ツール】

- 21) 書き込める情報整理シートをあらかじめ準備する (P18, P29)
- 22) 地区隊長のマニュアルの作成(消防署からの支援) (P28)
- 23) 自衛消防隊向けの「アクションカード」を作る (P29)
- 24) ビル対応のチェックシート・アクションカードを整理する (P30, P32)
- 25) 自社の応急救護備品の持参(可能な会社のみ) (P13)

Problem(問題点、不満)

【計画・運用】

- 1) 状況をイメージさせる説明が足りない
- 2) 説明会や講評でどう集まったらいいのかわからない
- 3) 訓練内容が上手く伝わっておらず円滑に動けなかった
- 4) 模範を見た
- 5) 応急救護所の場所が分からず、搬送に手間取った
- 6) 全体的な段取りをもう少し良く
- 7) テナントからの被害情報を訓練シナリオに組込むべき(漏水、天井落下等)
- 8) 訓練の基本を明確にして実施する(地震対応、火災対応)
- 9) 実災害時の活動との整合性
- 10) 班編成が小さく、人手不足であった(実際には地区隊は全社員対応)
- 11) 応急救護の知識が無い方はそれ以外の班にいた方がよい
- 12) 講習会の時間が少し長く感じたので、もう少し短縮した方がよい
- 13) 道具の用意が不十分、各班の装備品を明確に

【実施内容】

- 14) 建物が使用可能か判断するのが難しい
- 15) 実際の災害時、個別に地区隊と連絡をとれるか?
- 16) 役割分担された相手方の人材が不明のため、得意分野を引き出せなかった
- 17) 役割分担が理解できなかった
- 18) 重要な情報がホワイトボードに記入しても膨大な情報に埋もれてしまう
- 19) 決められた役割のみに集中する傾向があった
- 20) きっちりとした班編成で動かなくてもよい
- 21) シナリオ通りの動きでは面白くない
- 22) 隊長の力量によって進み具合や対応に違いが出てしまう
- 23) 適切な対応がわからないまま訓練をしていた
- 24) 訓練目的が明確になっていない
- 25) 情報が一度に来て扱いきれなかった、情報収集と整理は同時に出来ない
- 26) 普段行っていないことをいきなり実施した場面が多かった
- 27) 応急手当ての知識が不十分
- 28) 地区隊長の指示が明確になされるべき
- 29) 様々な被害の優先順位がよくわからなかった
- 30) どのように行動するか具体的に分からず、暇になってしまった

【ツール】

- 31) 建物チェックシートが複雑
- 32) チェックシートを様々な被害にも対応する必要がある
- 33) iPad関連で様々なトラブルが起きて、スムーズにできなかった
- 34) iPadは操作したこともない人が多い中、実際の災害時の利用は非現実的

図70 訓練アンケートおよび検証会で抽出したKPT(自衛消防訓練)

医療救護訓練の振り返り

緑:アンケート結果 青:検証会結果 赤:共通

Keep(継続したいこと、良かったこと)

【計画・運用】

- 1) ベストパフォーマンス賞
- 2) 活動状況の相互評価
- 3) 傷病者と救護者に分かれての訓練
- 4) 目的が明確で、積み重ねを更に有効にする訓練
- 5) 行政・事業所・大学・医療従事者が連携した取組み
- 6) ファシリテーターなどが手厚い
- 7) 事前講習の成果を生かして対応できた
- 8) 規模が小さくなった分指示が届きやすい
- 9) リアルな設定
- 10) 救護所の立ち上げからの開始が実際に即していた
- 11) 2次トリアージを医師・看護師のペアですることは良い
- 12) 傷病者役の設定、やり方の補助が具体的に演じやすかった
- 13) 専門家による解説・講評が分かりやすく、充実していた
- 14) 1度目の訓練を振り返ってから2度目の訓練を行えることが良かった、前半の失敗が後半改善できた(情報連絡班)

【実施内容】

- 15) 初参加のため新鮮であった
- 16) 医療従事者の指示に対応できた
- 17) 災害時の具体的なイメージを持つことができた
- 18) 災害時の救護・医療現場の混乱が体験できた
- 19) 重傷者より軽傷者の方が厄介だと分かった
- 20) 他の事業者と訓練を通じて打ち解けられる
- 21) 傷病者への対応を学べた
- 22) 傷病者側の立場・心情を理解できた
- 23) 初対面の方とのコミュニケーションの重要性が分かった
- 24) 事前訓練の成果が出た(特に搬送)
- 25) 振り返りの時間で反省点などを客観的に話し合える点
- 26) 応急手当や搬送などの救護能力が向上した

【ツール】

- 27) アクションカードに導かれた

Try(Problemに対する改善策、Keepを継続する工夫)

【計画・運用】

- 1) 現場のリアリティを出す(P1)
- 2) 他の社員も訓練に参加させたい
- 3) 役割別の作業内容を確認できる訓練が必要
- 4) 事前講習を継続し、技量を維持・向上(K24)
- 5) 応急対応に関するリーダーの育成(P12)
- 6) 応急救護講習会に参加したか見分けがつくようにする(P13)
- 7) 事前説明の時点で情報の流れを説明する(P26)
- 8) ボランティアが集まる所から始めて、役割説明が行えるように、さらに実践的な訓練を目指す(P27)

【実施内容】

- 9) リーダーから誰が何の役割かを指示する(P2)
- 10) 担架の乗せ方、搬送を全員が経験すべき(P18)
- 11) フリーの医師を増やす(P14)
- 12) 各自が役割を死守する(P27)
- 13) 医師のリーダーを単独にする(P28)
- 14) 搬送先に救護者を3人以上常時待機とする(P29)
- 15) 救護のやり方を現地で教える人を作る(P30)

【ツール】

- 16) 画像や動画による事前レクチャー(P3)
- 17) 傷病者観察記録・情報連絡シートの使い方をあらかじめ周知する(P19)
- 18) 外傷治療に関する講習会を充実させる(P31)
- 19) 医療救護マニュアルの作成(P32)
- 20) 役割の内容・目的を事前に救護所のホワイトボードに記入しておく(アクションカードにも記しておく)(P35)
- 21) アクションカードを簡単な内容にする(P35)

【その他】

- 22) 訓練の見本・サンプルVTRが見たい(P32)
- 23) 訓練のための事前講習会の実施、参加(P32)

Problem(問題点、不満)

【計画・運用】

- 1) 訓練に緊張感が無い
- 2) リーダーとしてのメンバーへの指示が難しい
- 3) 事前の訓練説明が不十分だった
- 4) 参加者が毎年変わるため、基本的な部分の繰り返しが必要
- 5) 評価者と訓練参加者の見分けがつかない
- 6) 反省点を踏まえて2回目の訓練を行いたかった
- 7) 傷病者役を採点する評価基準が難しい
- 8) 傷病者と救護者で意見交換ができれば良かった
- 9) 会場の場所が分かりにくい
- 10) 医療救護班の人数が多いと良い
- 11) 傷病者の人数を増やした方が良い
- 12) 誰も指示していないように思えた
- 13) 救護者の処置がわからず、任せて良いかわからない
- 14) 医師・看護師の数が少ない
- 15) 拘束時間が長い
- 16) 仮想の救護所なので現実味が少ない
- 17) 会場内に見学者や観察者が多く、動きづらい。声も聞こえなかった

【実施内容】

- 18) 担架搬送は人手と力が必要、難しかった
- 19) 情報が上がって来ず、情報管理ができなかった
- 20) 傷病者が多く、2人1組での対応が機能しなかった
- 21) 傷病者が多く、救護者が全ての要求に対応できなかった
- 22) 説明で理解しても訓練では上手く動けなかった
- 23) 無線による情報伝達の役割がおろそかになった
- 24) 傷病者の演技が難しい(年齢、性別、軽傷、痛みを我慢など)
- 25) 講習会ではなく、報告会だった
- 26) 情報不足、救護活動が忙しい
- 27) 医師の方々の誰に何を伝えれば良いか困った
- 28) 医師リーダーがトリアージのペアに加わると、トリアージが進まない
- 29) 常時観察する救護者がいてほしかった、急変した人は?
- 30) 傷病者の観察が不足した
- 31) 怪我の患部を見ない人が多い
- 32) どう対応するのが理想的なのか事前に知りたかった

【ツール】

- 33) 傷病者観察記録シートが活用できなかった
- 34) 傷病者観察記録カードが書ききれない
- 35) アクションカードを見る暇が無く、活用できなかった

図71 訓練アンケートおよび検証会で抽出したKPT(医療救護訓練)

西口現地本部訓練の振り返り

緑:アンケート結果 青:検証会結果 赤:共通

Keep(継続したいこと、良かったこと)

【計画・運用】

- 1) 事業者が集まったの運営
- 2) 複数の団体が集まる訓練に参加・経験できたこと
- 3) 区防災センター、区役所との連携

【実施内容】

- 4) 情報整理のむずかしさを実感した
- 5) ローカル情報の発信(情報が不足する可能性があるため)
- 6) 全く知らない方々と共同で作業してみて、意識が高まった

【ツール】

- 7) 新宿駅西口地域の課題を再確認できた
- 8) 情報ツールを用いて帰宅困難者の誘導、案内ができた
- 9) 地域被災状況の集約

Try(Problemに対する改善策、Keepを継続する工夫)

【計画・運用】

- 1) リーダーは事前に決めておく
- 2) 本部長を育成する(P2)
- 3) ビル間で協力することのメリットを明確に出す(P3, P4)
- 4) よりシンプルなルールを定める(P10)
- 5) 定期的に訓練を実施(年2回以上を目標に)(K6)

【実施内容】

- 6) 情報の整理の仕方にルールを作る(P11)
- 7) 各オフィス、ビル間の通信手段を確立する(P12)
- 8) 掲示板のような一元化した情報整理表
- 9) ホワイトボードをカメラで撮影し、情報共有する(P15)
- 10) WEBGISをもっと見やすい形式にする(モニターを大きくなど)(P16)
- 11) 初めての人でも使えるツール、機材を用意する(P17)
- 12) 情報ツールの電源確保(P18)

【その他】

- 13) 区主導の地域の事業者への働きかけ(K3)
- 14) 活動の告知をはかり、地域への浸透を目指す

Problem(問題点、不満)

【計画・運用】

- 1) 区の役割と現地本部の役割がわかりづらかった
- 2) 役割分担を実際はどう決めるのか?
- 3) 西口現地本部の参集の際、人が集まるか?
- 4) エリア内の各ビル間の情報共有ができない
- 5) 現地本部の設置場所が決まっていない

【実施内容】

- 6) 基本的な伝達、応答ができていなかった
- 7) 情報の正確性、重要性の判断が難しく、発信が難しい
- 8) 入手した情報について、どこまで対応すべきか難しい
- 9) 停電時はどう活動するのか
- 10) 現地本部の役割、全体像が見えにくかった

【ツール】

- 11) 情報の整理、優先順位づけが難しい
- 12) 防災無線を実践で使用できるかわからない
- 13) SNSと連携できるか事前に練習をしないと災害時に使えない
- 14) パソコンが使い慣れない
- 15) ホワイトボードに書いた情報を上手く活用できなかった
- 16) WEBGISが見づらい
- 17) 情報ツールの操作が難しい
- 18) 停電すると情報ツールが使えない

【その他】

- 19) 区主導の地域の事業者への働きかけ
- 20) 活動の告知をはかり、地域への浸透を目指す

図72 訓練アンケートおよび検証会で抽出したKPT(西口現地本部訓練)